

林 重雄¹：福井県の海岸にイシゴロモカイメンの付着したガラス浮きの漂着

Shigeo HAYASHI¹ : Drifting glass float with *Caminus awashimensis* on the coast of Fukui Prefecture, Japan

イシゴロモカイメンは、尋常海綿綱チョウズバチカイメン科の海綿で、本州中部以南、天草、台湾海峡に分布している。直径4 cmほどの洋梨型をした塊状で、基部で連結し体長8 cm位になる。頂上には丸い孔が開き、表面は平滑で褐色がかかった灰色である。外側はきわめて硬いが、内部はやわらかく和菓子の石衣に似ている。水深5～10mの岩礁に着生する（奥谷・楚山 2006）。

日本でのガラスによる浮きの生産は明治時代に北海道の水産技師が海外視察で持ち帰り製造が始まり、大正時代に普及した（杉江 1950）。その後製造が続けられたが、1980年代になるとプラスチック製品の普及で一気に生産量は減少し、現在製造を続けているのは小樽の浅原硝子のみである（中司 2006；浅原硝子ホームページ）。

漂着記録

2020年3月12日、福井県美浜町山上で漂着物の調査を行った（図1）。山上は敦賀半島の基部である佐田から1.5kmほど西側に位置し、海岸線は北西に面している。半島の西にあたり特に北西の季節風の強い冬季には、漂着物の寄り集まる場所である（林 重雄ブログ）。またこの地域の基盤岩は泥岩が優勢なジュラ紀のメランジュからなり、それらから供給された碎屑物は、大礫から小礫、さらには黒砂となって特徴的な海岸景観を作り上げている（ふくい地質景観百選編集委員会 2009）。この日の調査では高潮線上に大量のプラスチック類とともにガラス浮きも2個確認できた。そのうちの日本製と思われるガラス浮きは直径85mmで、網掛けのされた上にイシゴロモカイメンの付着が認められた（図2）。イシゴロモカイメンは完全なものではなく、発見時には欠けなどの破損が見られたが、頂上の丸い孔や基部



図1 調査地点の位置・福井県美浜町山上

での連結から3個体が密生して付着していた。密生していたイシゴロモカイメンは3個体で横に連結し102mmとなり、体長は69mm, 68mm, 70mmであった。また頂上部に開いた穴は一つだけ計測でき直径2.5mmであった（図3）。外側の硬質部分の表面には雪の結晶に似た模様が見られ、断面は1.1～1.7mmの範囲で、顆粒状の物質の集積となっていた。



図2 ガラス浮きに付着したイシゴロモカイメン

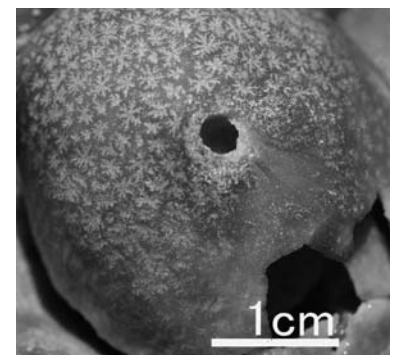


図2 イシゴロモカイメンの頂上部にある孔周囲のクローズアップ

謝辞：北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

引用文献

- 浅原硝子製造所ホームページ. <http://www.asaharaglass.com/> (2020年4月15日閲覧)
 ふくい地質景観百選編集委員会 2009. ふくい地質景観百選. 120pp. 福井市自然史博物館, 福井.
 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>) (2020年4月15日閲覧)
 石井 忠 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.
 気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>) (2020年4月15日閲覧)
 奥谷喬司 楚山勇 2006. 新装版海辺の生きもの. 368pp. 山と溪谷社, 東京.
 中司光子 2006. 小樽浅原硝子訪問記 どんぶらこ20別冊; 9-12.
 杉江重誠 1950. 日本ガラス工業史. 662pp. 日本ガラス工業史編纂委員会, 大阪.

(Received June 17, 2020; accepted July 15, 2020)

¹ 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

¹ 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan